

農協だより

JAくしろおおた



●表紙／(写真左上・左下)パルシステム 茨城・栃木牛乳消費拡大運動にて
(写真右)よつ葉消費拡大運動(MILK LAND HOKKAIDO→Tokyo)にて

目次	JAトピックス	2
	女性部通信	7
	欧州視察研修後半報告	9
	営農ホットライン	21
	JAグループ通信	22
	JAインフォメーション	23
	みんなの広場・編集後記	24

2019 **12**
No.25

JA 釧路太田農業協同組合

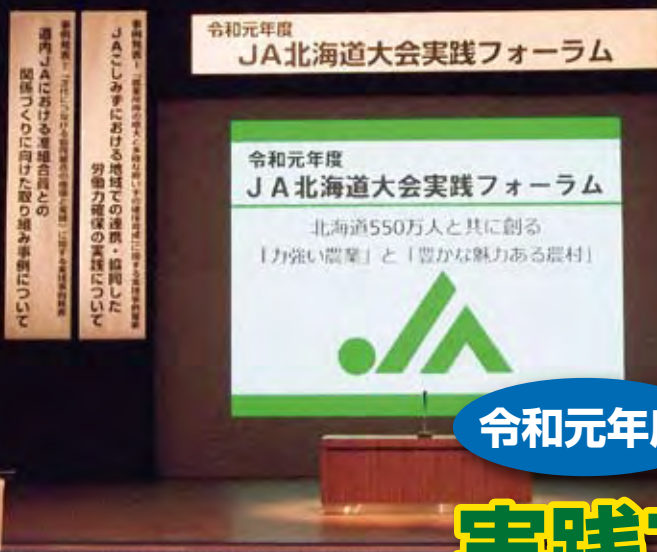
■発行:厚岸郡厚岸町太田5の通り19番地1 TEL.0153-52-7151
■発行日:令和元年12月1日 ■編集:金融課 ■印刷所:(有)厚岸印刷



←JA釧路太田オフィシャルウェブサイト
www.ja-kushirooota.or.jp/

ja 釧路太田





令和元年度 JA北海道大会 実践フォーラムに参加

令和元年11月12日(火)に札幌市教育文化会館において、「JA北海道大会実践フォーラム」が開催されました。

昨年開催された「第29回JA北海道大会」で決議された実践事項や課題を共有するため、全道のJAおよび連合会役職員をはじめ、青年部や女性部、その他関係団体など約1,000名が参加し、当JAからも役員2名、青年部・女性部より各1名、職員1名の計5名が出席しました。

開会に当たり大会実行委員長であるJA北海道中央会の飛田会長より、気象災害による農家の状況を振り返るとともに、日米貿易協定や農協改革の情勢についてご挨拶をいただきました。

基調講演では「農業の未来と農協への期待」をテーマに、日経新聞社の吉田編集委員が農業や農村の新しい動きや可能性について講演されました。そのあと、「農協改革をめぐる情勢・動向と農協に期待すること」と題し、農水省経営

局協同組織課の日向課長より、農協改革の進捗状況と期待される農協について事例を交えて講演いただきました。

その後、前大会で決議された『農業所得の増大と多様な担い手の確保・育成』の実現に向けた取組みを実践されているJAこしみの渡部営農部長より、「地域での連携・協同した労働力確保の実践について」報告をいただきました。事例発表の2つ目として、『次代につなげる協同組合の価値と実践』に取組んでいるJA札幌市の丸岡専務、JAふらのの山岸常務、JA北海道中央会の高橋参事の3名より、それぞれの組織での准組合員との関係づくりについて報告をいただき、盛会にJA北海道大会実践フォーラムが終了しました。

当JAとしても、実践フォーラムの内容を参考に、これからの農業や協同組合の意義や価値を発信するとともに、組合員並びに地域住民と協力して大会決議事項の実現に向け鋭意取り組んで参りたいと思っております。





山形県ふるさと フェア村山に参加

厚岸町の友好都市である山形県村山市において、令和元年11月2日(土)開催される「ふるさとフェア村山」に参加するため、厚岸町から総勢16名による訪問団が結成され参加してきました。当JAからは尾崎管理課長補佐が参加しました。

11月1日(金)午前7時に厚岸町役場を出発し、新千歳空港経由で仙台空港着、午後3時すぎに村山市に到着し、村山市役所で表敬訪問を行いました。

今年は、東京都台東区と宮城県塩竈市からの訪問団11名も一緒に、歓迎セレモニーでは志布村山市長より挨拶をいただき、各訪問団代表からの挨拶のあと、市職員らと全員での記念写真も撮影しました。午後6時からは別会場にて歓迎レセプションも催され、各区市町より50名ほどが参加しましたが、村山市より熱烈的な歓迎を受け楽しいひと時を過ごすことが出来ました。

「ふるさと産業フェア」当日の11月2日は、好天に恵まれ午前10時より「飆葉プラザ」前の特設会場にて、『厚岸物産展』が開催され、開始前から多くの市民が訪れ、厚岸の海産物のほか、当JAの「あつけし極みるく」などの多くの加工品を、たくさん買い求めている大盛況でありました。

「あつけし極みるく」がインターネットを通じ多くのの人々に知られていることに、あらためて驚き、これからも美味しい厚岸の牛乳をたくさんの人たちに飲んでいただけることを期待します。

11月23日(土)には、反対に村山市が厚岸町を訪問して、道の駅「コンキリエ」を会場に『村山秋の味覚市』も開催され、行政を通じて地域間交流が深まることを願うところであります。

購 買 課 通 信



A・コープチェーン釧路地区

歳末キャンペーン

スピード三角くじで、その場でプレゼント!

- 500円お買い上げ毎に補助券1枚発行、補助券6枚で1回抽選
- 3,000円お買い上げ毎に抽選券1枚発行
- 特賞…1万円相当の商品ほか
- 1～3等・ラッキー賞など豪華な景品がいっぱい!!

実施期間

令和元年12月1日(日)～12月28日(土)

抽選期間

令和元年12月25日(水)～12月28日(土)



職員旅行に いってきました。



～第3班 秋田・岩手・宮城4日間の旅～

今年は第3班目として、自称グルメ家である肉食系男子5名と草食系女子4名の総勢9名の職員が参加し、令和元年11月9日～12日の3泊4日で、秋田・岩手・宮城県を巡る道外視察旅行に行ってきました。



1

日目は千歳空港を経由して秋田空港に到着、角館の「武家屋敷通り」を散策し、秋田名物の「きりたんぼ」や「玉こんにゃく」を食べながら、秋深まる江戸時代にタイムスリップしました。その後、辰子姫伝説に彩られる、日本で最も深い湖である「田沢湖」をバスの車窓から眺めながら、岩手県盛岡市内のホテルにチェックインし、盛岡駅周辺で焼き肉や盛岡三大麺のひとつである「盛岡冷麺」を堪能しました。



2

日目は、世界遺産である「平泉の中尊寺」も紅葉が見ごろであり金色堂や本堂などを参拝し、その後、磐井川流域2kmにわたり巨岩が浸食された「厳美溪」を散策し、昼食には三大麺である「わんこそば」に舌鼓をうち、お腹いっぱい宮城県に向かいました。

仙台市内にある「キリンビール仙台工場」で採れたてホップのビールを試飲し、紅葉が色鮮やかにライトアップされた、仙台藩祖伊達正宗公の霊屋である「瑞鳳殿」周辺を散策し、ホテルチェックイン後には仙台名物である「牛タン」を食べながら、仙台の夜を満喫しました。



職員ボウリング大会で 白熱した結果に!

令和元年11月15日(金)に、

令和元年度J A 釧路太田

職員ボウリング大会が釧路パレスホテルで開催され、J A 職員28名が参加し、9チーム対抗でスコアを競いました。

ボウリング大会は毎年秋に開催され、今年度も白熱した勝負が繰り広げられました。

プレーの結果は

〈男性の部〉

優勝 佐藤翔太

2位 松田浩昭

3位 山吉誠二

〈女性の部〉

優勝 本間佳菜

2位 杉本志保

3位 宮 千春



女性の部優勝 本間



男性の部優勝 佐藤





3 日目は怪しい天気のため、「ニッカウイスキー宮城峡工場」でウイスキーについて学び、3種類のウイスキーを試飲しました。冷たい雨が降り出した中を、バスは一路、松島へ向かいましたが、昼食後には雨も上がり「瑞巖寺」や「円通院」を参拝後、「松島」島めぐりの遊覧船に乗船して50分ほどの海の旅を満喫しました。その後、「仙台うみの杜水族館」でイルカショーなどを観覧し、ホテルへチェックイン。食通で知られる9名?の舌で、「牛タン」に舌鼓をうち、仙台最後の夜をエンジョイしました。



4 日目は仙台駅周辺で抱えきれないほどのお土産を手にして、電車で仙台空港に向かい、新千歳空港を経由して厚岸町へ無事到着し、楽しく短い旅は終わりました。今回の旅で東北地方を少しだけ知ることができ、たくさんのお名物料理やご当地グルメを堪能し、歴史と食に深い関心を持つことができ、ちがう課の職員と交流も深めることができました。



〈団体賞〉チームG
山吉誠二
山本詩菜
本間佳菜
となりましたが、非常に僅差のスコアとなりました。
懇親会場で表彰式も行ない、ジンギスカン鍋を囲みながら、肉やお酒の量も進み、職員同士で楽しい時間を過ごすことが出来ました。

町営牧場。 JA牧野より 自宅へ!

令和元年10月25日(金)
29日(火)の4日間にわたり、

厚岸町営牧場とJA牧野への一斉退牧が行われました。

広い放牧地で5か月ほど駆け回った育成牛は、一回り大きくなり、各牧場へ戻っていきましました。

また、一部の育成牛は冬季預託のために町営牧場に残っています。妊娠牛となり地域の生乳生産に活躍してくれることでしょう。

今年は入牧頭数が、約630頭と昨年よりも少なく、一斉退牧では371頭の育成牛が自宅へ退牧されました。



Welcome デイリー運動 酪農学園大学 就農講演会 個別相談会

「Wデイリー運動」釧路担い手対策推進グループが主催する「酪農学園大学 就農講演会・個別相談会」が令和元年11月13日に開催され、当JAを含む釧路管内6JAが参加しました。

就農講演会ではJA阿寒青年部の浅野達彦氏が酪農経営の取組について講演を行い、約160名の生徒に御来場を頂きました。

個別相談会では管内5JAが就農相談窓口となり6名の生徒に足を運んで頂き、酪農実習生受入協議会の片野博次会長、同会役員の小野寺竜之介氏も同席のもと、当JAは3名の生徒と面談することができました。

農業専門校であるため、就農、牧場就職、人工授精師などの酪農業界への進路を志望している生徒が多く、その大半が在学中の短期牧場体験の関心が高く、牧場体験を通じて生徒との接点を持つことが人材獲得の可能性を高めるには有効的かと感じました。





よつ葉消費拡大運動

MILK LAND HOKKAIDO→Tokyo



「DO→Tokyo」の新店舗にて、乳製品の消費拡大運動を行ってきました。

前日の19日(金)は、十勝地区の方々が消費拡大を行っており、20日(土)の根釧地区は、当農協から女性部2名(村田さんと大和さん)、事務局1名で参加し、阿寒農協からも女性部2名と事務局1名、また、よつ葉乳業(株)根釧工場の中谷課長も同行し、主に7人で行動を共にしております。

当日は、午前と午後の部に分かれ消費拡大を行い、当農協は午後の部でしたので昼食を済ませた後に店舗へ向かい、村田さんには店舗前に用意されてある模擬牛の搾乳体験コーナーの対応をしていただき、大和さんには店舗前で十勝や根釧牛乳の試飲の対応をしていただき、事務局は2階のイトインスペースにてよつ葉のホットケーキミックスを使用したホットケーキの試食の対応を行いました。

来場者数としては約1000人とのことでしたが、店舗前を通りすぎる人も女性部の方の声かけに足を止めてくださり、生産者と消費者との交流の場ができて嬉しく思いました。

パルシステム

茨城・栃木消費拡大運動



令和元年10月26日(土)、栃木県宇都宮市「マロニープラザ」にて、毎年恒例であるパルシステムの商品展示会に寺島部長、菅原さん、河村(美)さん、事務局2名で参加し、東京のホクレン牛乳課の方々と消費拡大運動を行ってきました。

例年同様に、こんせん72牛乳の試飲、こんせん72牛乳を使用したこんせんブレンヨーグルトの試食、よつ葉のシユレッドチーズを食パンにのせて焼いたチーズトーストの試食を行い、隣では模擬牛を使用した搾乳体験コーナーも設け、老若男女問わず大人気でした。

試飲試食の際には、「いつも飲んでいます」「子供達はこんせん72牛乳しかのびません(笑)」など嬉しいお言葉もいただきました。

また、パルシステムの職員がパルシステムで取扱っている茨城県産などの牛乳の飲み比べも行っており、飲み比べた子供たちが「こんせん72牛乳が1番好き!」と言ってくれた姿に、生産者の方々も笑みを浮かべていました。

昨年のブラックアウトの際には励ましの言葉をたくさんいただきましたので、今回、台風被害に遭われた方々への励ましの言葉も忘れず、日々の感謝も伝えている様子でした。

令和2年11月頃には、同じ企画による消費拡大運動が開催される予定です。

この貴重な消費者との交流の場に、是非とも多くの生産者の方々に参加していただきたいと思っておりますので、来年の参加ご検討よろしく申し上げます。

J A 北海道女性リーダー研修会 北海道家の光大会



令和元年度11月7日(木)～8日(金)、家の光北海道大会が行われ、寺島部長、中山副部長、加藤監事、事務局1名が参加しました。大会の会場は、「シャトレーゼガトーキングダム サッポロ」で開催されました。

家の光記事活用体験発表は、今年度は当JA女性部が割当たっており、中山副部長が発表者として出席しました。

2ヶ月前から記事作りに没頭し、パワーポイントも写真をたくさん使い、精一杯の気持ちを込めて大会に臨みました。

発表中は周りの反応もよく、発表終了後の手作り工夫展(各単組の手作り作品展示会)見学中には、見ず知らずの方からも「発表す

ばらしかったです！」などお声がけもいただき高評価でしたが、惜しくもあと一步、優勝には届きませんでした。

体験発表内容では、各単組の活動内容をわかりやすく知ることができ、支部活動の更なる活動のヒントになったことと思います。

これを機に、家の光掲載記事を活用した研修会を開催するなど、来年度は新しい取組みを行うことが出来たらいいと思いました。

また、家の光誌は最近リニューアルしましたので、1部からでも購読可能ですので、是非、購読されていない方にも手に取っていただければと思っています。

3つの特集 “いま”知りたいテーマの特集が毎月3つ



年6回
別冊付録が
付きます



ぜひご購入ください!



健康 健康寿命100歳をめざして



手芸 手軽に作れて暮らしに役立つ!



料理 毎日のごはん作りの強い味方



“読みたい記事がきっと見つかる!!”

食と農から始まる。JAグループのファミリー・マガジン



定価(税込)
●普通月号 629円
●付録月号(1・4・5・7・9月号) 922円
●家計簿付き12月号 1,027円
※消費税率変更にもとない、2019年12月号より定価改定いたします。





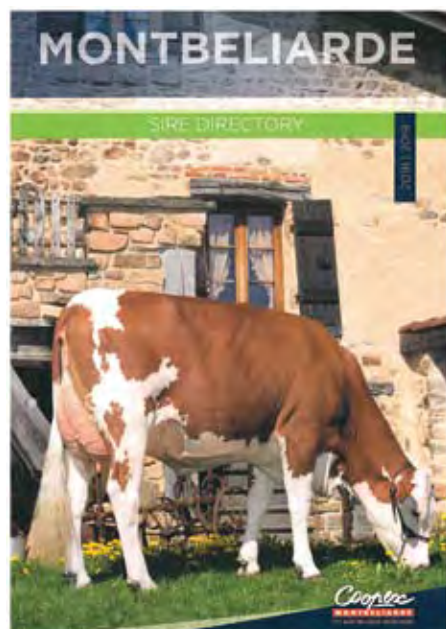
釧路太田集落 欧州視察研修 後半報告

平成31年4月2日(火)～4月13日(土)の12日間に渡って、釧路太田集落主催による欧州海外視察研修を実施致しました。

11月号では視察の前半の報告としてオランダ・デンマークの視察先についてご報告致しましたが、今月は後半としてフランス・ドイツのご報告をさせていただきます。

○フランス

フランスではモンベリアード種の乳用種についての研修会や精液会社、モンベリアード飼養農場を視察してきました。



モンベリアード種の特徴
フランスで飼養されている乳牛の中で、2番目に多い乳用種であり、バランスが良く強健性を高めることを目的に改良された乳用種。

〈具体的なデータ〉
乳量8,260kg、乳脂肪率3.9%
乳蛋白率3.49%
平均分娩間隔392日
(全乳用種対比▲10日)
初回受胎率53%
(ホルスタイン40%)

上記の他、飼料効率が高く、安産分娩、長命性、乳房炎耐性、産肉性に優れているといった特徴を有している。

モンベリアード 研修会

講師／コーペクス社
(精液会社)



モンベリアード種について視察するにあたり、モンベリアードの精液を取り扱う精液会社から講師を招き、事前研修会を実施致しました。

■カリフォルニアでのホルスタインとクロスブリード（ホル×モンベリアード）の比較試験結果

生産性	ホルスタイン	モンベリアード × ホルスタイン	優位性
頭数	416	503	—
305日乳量	11,417	10,744	▲5.9%
生涯生産量	28,086	32,891	+17.1%
生涯脂肪%	3.5%	3.7%	+0.2%
生涯蛋白質%	3.1%	3.2%	+0.1%
生涯脂肪kg	996	1,217	+22.2%
生涯蛋白質kg	871	1,050	+20.5%
体脂肪スコア	3.27	2.98	▲8.8%

生産性	ホルスタイン	モンベリアード × ホルスタイン	優位性
初回種付日	70	63	▲7日
空胎期間	148	122	▲26日
4産時の生存率	29%	55%	+26.0%
利益\$ / 日	\$4.14	\$4.39	+6.0%
牛群滞在日数	937	1,150	+213日
生産利益\$ / 頭	\$4,347	\$6,503	+49.5%

試験結果の比較から、生産性・繁殖性に係る項目の多くで、クロスブリード牛に優位性がみられた。



ゲリー・ブルーノ 農場 【ブザンソン】



1,200万の搾乳ロボット



7産した牛!

純血モンベリアードを搾乳牛90頭を飼養し、年間10500kg/頭、乳脂肪4・3%、体細胞は平均約18万の乳質として、搾乳ロボットでの搾乳スタイルで生乳を出荷している。モンベリアード種を飼養することにより、牛の寿命が長く後継牛に余剰が出来るため、年間15頭程度は販売することが出来ている。搾乳ロボットの購入代金は約1200万円/台。

感想

河村 公貴

純血のモンベリアードを飼養している農家ということで期待していた視察先でした。視察した農場のモンベリアードの印象では気性はおとなしく、足も非常に丈夫そうで、飼養しやすい印象だった。また、発情が弱いイメージだったが、乗り合いをしている牛もいたので問題ないように思えた。産肉性については、実際ヨーロッパで食べて、日本とヨーロッパの食文化の違いがあり、肉用での導入は厳しいのかなと感じた。

乳用牛としての生乳生産成績がアナウンス通りの成績ならば、今後検討したい。

視察先のデラルの搾乳ロボットは約1,200万円で購入していると聞いた。日本の半額以下で格安である。古い牛舎にそのままロボットをつけたようで、施設投資への負担が少なく経営効率が非常に高いように感じた。



感想

福井 和彦

家族で経営し搾乳牛90頭絞っていました。家族だけでは仕事がまわらないため、搾乳ロボットを購入。「1頭当たりの乳量平均が36キロになり、牛の疾病も減少、家族で仕事が回せるようになり、より牛の事が見られるようになった」と言っていました。最新機器の導入により労働力の軽減が図れるが、単純に労働力を軽減させるためだけではなく、軽減された労働力をどこに向けるかも非常に重要だと感じました。

これからの時代、日本だけではなく世界の酪農家で働く人達が減ってきており、そのため搾乳ロボットやその他様々のロボットを有効活用していかなければ、個人農家は生き残っていけないのではないかと思います。





フランス
モンベリアードクロス
(ホル×モンベ)
飼養農場
[ブザンソン]



搾乳頭数160頭、年間乳量1600tの生乳生産、年間10500kg/頭、乳脂肪分4・1%、体細胞は平均約19・7万の乳質として、12Wパーラー形式で生乳出荷している。10年前に3農場が合併して出来た農場で、最初の1年間はテスト期間としてスタートし軌道にのり現在に至る。家族経営ではないため、毎朝のミーティングを日課として従業員間の和を保つようにしている。クロスブリーディングを採用している一番の理由は、交雑することにより牛自体が丈夫になることであり、過去にブラウンスイス等も交雑していたがうまくいかず、モンベリアードのクロスブリードにしている。

感想 中山 ゆい



初めてホルスタイン以外の乳牛、モンベリアードを見て色々な違いを知る事が出来ました。まずは、体格がホルスタインに比べて背は低く肩幅や脚の太さ尻の形など、長寿に関わってくる事や受胎性も良く精子の削減ができ、平均分娩のサイクルも短く死産率も低いのでホルスタインよりも優れている部分が多いと感じました。最も違うところは飲料よりもチーズ加工に適しているところで、乳量、蛋白、脂肪の品質が高い事がわかりました。性格も穏やかで体細胞トラブルも5%と搾乳のしやすさが期待出来そうです。そして各国、高温地域や放牧、密集飼育といったさまざまな環境で育てられていて、日本でも環境に順応でき、ホルスタインよりも搾乳牛として主になっていくのではないかと、今後の酪農産業の動きが楽しみになりました。





感想

小野寺 竜之介



近年ホルスタインの受胎率が低下しており、その原因は栄養や発見率等々という様々な見解がある中で単一つまりはホルの品種改良が進みすぎた事もあるのではないだろうかと推測されます。そこでホルに代わる品種としてフランスのモンベリアードという品種を扱っている会社の見学をしました。印象はズングリむっくりのアンガスのように顔が白い、そして温厚そうな感じがしました。

説明を受けると乳成分においてもA2ミルクやカップパゼインBといったゲノム情報もしっかりしていて、種雄牛の精子採取や受精卵のラボ、それに加え純血をしっかりと販売するために専属の授精師がいるなど徹底していてリスクマネジメントも完璧だと思いました。さらにストローの希釈率も低い事から良質なのだろうなと思います。

もしも日本で飼うのならクロスブリードを進められましたが、生体の輸入も検討されている事から純血が欲しいなと思いました。ただ、まだまだ市場が確保されていないことを考えると生体輸入して高い長命連産効果を活かして判別精液による繁殖がベストだと思います。私的には赤身で食べ応えのあるモンベリアードの肉は好きだと思ったのですが、受け入れられるまでにはかなり時間がかかることでしょう。アメリカにおいてもアニマルウェルフェアの観点から牛床にあわせホルからブラウンスイスにした例もあるので、ホルが当たり前と思う時代も変わるかもしれないなと思いました。あくまで私の固定概念ですが、モンベリアードはブラウンスイスのような個性派でもないし、ジャージーのような貧弱でもない、強健なかわいらしい放牧も向いていそうな牛だと思います・・・が！！

スタンションは無理そうでした。



1978年に設立、モンベリアードの凍結精液・受精卵・未經産牛の販売をしている。酪農家のブリーダー15000戸からなる組織で、11のAIセンターを保有し、モンベリアードのシェアは87%を占める。年間で約70万本の凍結精液、初妊牛7200頭の輸出取引がある。





レリー担当者の発言

全てを機械化、全自動化することは出来ない。機械には限界があり、85%程度は機械化できるが、残り 15%は人がやるしかない。空いた 85%で、人間が何ができるかが重要。

どんなにAI化が進んでもこの業界は結局最後は人間である。



レリー社の成り立ちから始まり、農業機械の製造工程全般を含めた工場見学となりました。





ペイト農場



ふれあい観光牧場として、酪農専門ではなく直売やふれあい体験を収入の軸とし、売上げの比率としては酪農10%、ショップや体験が90%となっている。搾乳牛100頭を飼養し、1頭あたり29kg平均/日の生乳生産。レリーの搾乳ロボットA4と自動給餌システムを導入し機械化による省力化を図っている。



最新の自動給餌システム



感想 河村 賢人

飲食店やチーズ販売と酪農、さらにはふれあい農園として経営している農家で、売上げのほとんどが酪農以外で売り上げていることにおどろいた。

牛のほかにたくさんのブタやヤギを飼っており、従業員については知的障害者の方も採用しており、農業をしながら社会貢献にも関わっていることを感じ、酪農の可能性を感じた。





ヨルデン農場
[アムステルダム]



乳牛総頭数140頭、草地面積50haを所有し、年間乳量1000kg/頭、乳脂肪分4・6%、平均体細胞約10万、生菌5千の乳質で生乳を出荷。オランダの一般的な家族経営規模であり、レリーの最新型ロボットA5を導入後、規模が倍増したが労働力は変わらなかった。乳牛はクロスブリーディングを採用し、ホルスタイン×スカンジナビアレッド×モンベリアードをかけている。

を導入後、規模が倍増したが労働力は変わらなかった。乳牛はクロスブリーディングを採用し、ホルスタイン×スカンジナビアレッド×モンベリアードをかけている。



最新型搾乳ロボット レリー マストA5

感想 中山 景介



牛舎の形が特徴的でした。普段よく見る牛舎は縦長なのに対し横長で、シックスローでした。横長なので中央にあるガラス張りの事務所から牛舎全体を一望でき、縦に移動距離が短くすむので、牛の管理がしやすく作業効率が良い牛舎なのではないかと思いました。今後の参考になる牛舎の形でした。A5は数頭連続で観察していたのですが、牛がロボットに入ってから乳頭洗浄、装着までの流れが安定してスムーズで早いです。ロボットの性能には不安要素は感じられなかったです。



Hohenziatz農場
木原智也氏が研修
していた農場



農場概要

25年前に事業拡大の為、オランダから移住した。当初は140頭でスタートしたが、現在は3つの農場を保有し、合計4900頭を飼養、生乳生産量は4万5千トンとなった。

今回は3つの農場のうち、一番大きな農場を視察しました。

飼養頭数3300頭、74ポイントロータリーパーラー、従業員は50名を雇用し、1回の搾乳時間は8時間半にも及ぶ。敷地内にバイオガスプラント5基(1300kw)を有し、草地面積は3000ha(内デントコーン1500ha)

多頭数飼育されているが育成牛の管理は良好。搾乳牛の牛舎はかなり過密だがオーナーは気にしていない様子であった。



感想

齋藤高範



視察研修9日目には木原智也さんが一年間研修していた農場では、3,300頭もの牛を管理しており、デントコーンの畑の面積だけで約1,500haありました。私は3,000頭以上もの牛がいる農場の視察は初めての経験で72ポイントのロータリーパーラーも初めて見る事ができた。育成牛の牛舎が過密状態になっていないかという質問には立ってる牛もいれば座っている牛もいるし、長期間入れているわけではないと言っており、過密な状態は牛にとって良くないと思っていたので、海外の酪農でも様々な管理法があるのだなと感じた。



市場調査



デンマーク ～コペンハーゲン～

デンマークの一般的なスーパーma(イヤマ)を観察

牛乳の価格は1本あたり130円前後で、物価の高いデンマークにしては非常に安価であった。

販売される牛乳の種類が豊富(パッケージの色によって種類が一目でわかるようになっていた)

名 称	パッケージカラー	脂 肪 分
スコメットミルク	灰 色	0.1%
ミニミルク	灰色がかった水色	0.5%
レトミルク	水 色	1.5~1.8%
セゼミルク	青	3.5%以上

デンマークでは健康志向の高まりもあり、一般的に低脂肪牛乳が多く飲まれている。



ドイツ ～ベルリン～

一般的なスーパーでは、牛乳の価格1本あたり130~150円程度、デパートでは240円程度で取り扱われていた。デパートでは非常に種類豊富な乳製品売り場があり、日本のデパートの食品売り場と大きく異なっていた。

市街地中心にある広場では青空市場が定期的に催されており、出店の半分以上が乳製品又は加工肉の出店で占められていた。畜産食品の消費量が多く食文化の違いを感じた。



欧州視察研修を終えて

河村 公貴



餌の粗飼料割合が5割（もしくはそれ以上？）といった高い水準を保つため、圃場の更新を3～5年と短いスパンで行い、雑草の混入や粗飼料の成分低下の防止、品質やリスク回避を考えた草種の選定と高い技術と意識を感じた。

昨年の干ばつで草地のダメージが大きいと聞いたが、どの草地もそんな印象はなく、圃場管理の成果かどうかはわからなかったが、今回の視察農場で見た草地はどれも雑草の少ない草地ばかりだったのが印象深かった。

北海道より気候が温暖で、違いがあるので同じ事が出来るか解らないが、粗飼料の必要性を見直す良い機会だったと思う。

市川 勝美



以前から興味があったモンベリアードのクロスブリーディングについては、実際に牛を見ることが出来たのが非常によかった。生産性や繁殖性が非常に優秀であり、この視察がクロスブリーディング試してみようと思うきっかけとなったことは間違いない。

ただし、モンベリアードの肉としての価値については、ステーキを試食したが、かたい肉質で、日本人には合わないのではないかと感じ、産肉としては若干不安が残るイメージだった。自分の農場の搾乳ロボットも更新時期が来ており、今後どのように酪農経営を進めていくか悩んでいたところだが、レリー社の最新の機械も見ることが出来たおかげで、レリー社のA5導入の決め手となり、レリー社の自動給餌機についても前向きに検討したいと思った。

今回の視察で、自分の酪農経営に活かすことの出来る貴重な体験をさせて頂いたことを非常にありがたく思っています。

河村 賢人



ヨーロッパは非常にのどかで素敵などころでした。牧場は広く、牛やヤギなど多数飼育しており、

あらゆることに活用されている。町並みの景観もすばらしく環境への配慮を感じ、食事についてもパンや肉料理が多く、酪農と結びつく食文化を感じた。

最新の搾乳ロボットや給餌機を見れたことは将来自分の家の酪農経営をどのように進めていくかの参考になり、いつか搾乳ロボットでの経営も検討していこうかという話がありました。視察で見て学んだことを少しでも役立てようと考えております。

齋藤 高範



今回の視察で見た農家さん方は草地を多く持つており、私の家で草地を増やすには山を削り、木を伐採いなくてはいけないため費用がとても掛かるのでうらやましく思いました。また畑が平らで作業がとても簡単でできそうなのがとても羨ましかったです。

ヨーロッパの気候は天候にも恵まれていましたが、私にとってはとても過ごしやすく快適な環境でした。食事に関しても、肉は脂身が無く、さっぱりしてとても食べやすいものでした。次回も海外視察に行けることがあれば、その地域と太田、今回の視察先での酪農の違いを見てみたいと思いました。

木原 智也



今回、このヨーロッパ視察に参加させて頂いたことで、酪農に対する知識をさらに深めることができた。

でき、ヨーロッパ諸国の酪農と日本の酪農それぞれの情勢を比較する機会を得ることができた。それと同時に、自分の見の狭さを痛感し、各国酪農家の方々との対話で価値観の違いなど、国際感覚の必要性を感じた。視察させて頂いた場所すべてに学びがあり、多くの刺激を得ることができた。

その中でも特に印象に残ったものの一つは、オランダで視察したLELYY本社である。自動省力化が進むこの産業で、その分野で先頭を走るLELYY社を視察して、実際に日本でも稼働している搾乳ロボットを制作する現場を見ることができた。また、ここまで自動化やIoT化が加速する中で、「どんなに彼らが進んでも結局は人間次第」ということをLELYYの社員が仰っていたのが印象的だった。

二つめは、自分が過去に研修させて頂いていたドイツのギガファームである。研修していた当時は大学卒業後すぐであり、自分の牧場以外で、ギガファームではほぼ未経験の状態で、異国で仕事をする日々だった。帰国し、実家で就農し研修する前よりさらに知識が増えてから再び訪れた研修先は違った風景に見えた。研修について疑問に感じていた点と点が線に繋がったように感じた。

それぞれの視察先で一番感じたことは、どこもそれぞれ厳しい情勢の中で生き残るための努力を惜しんでいないこと、そしてそれはまだまだこれから続いていく道半ばである、ということが伝わってきた。個人的に、そんな状況でも牧場を経営する社長の家族や従業員の方々の幸福度は高そうだった。自分のただの勘違いかもしれないが、そう感じた。これからは自分は仕事をしながらももっと様々なことを勉強し経営者になるための努力をするが、自分がいつか経営者になった時にそういった、まわりの人間の人生に、地域にどう自分の牧場が関わって貢献しているのか、今から、少しづつ考えていきたい。



福井 和彦

海外視察があることは聞いていましたが、自身ははじめは行く気は全くありませんでした。

今年に入り両親から海外の酪農家や雰囲気を若いうちに見てくることを勧められ、行かせてもらうことにしました。

実際に行って、色々な角度から酪農を見ることができ、また、人との関わり大切さを肌で感じる事ができてよかったです。海外視察をして外国の酪農家はゆとりのある環境で楽しそうな雰囲気でしたが、この「ゆとり」や「楽しさ」はしっかりとした経営基盤があつてこそそのものであることを飼養環境や牛の状態から感じる事が出来ました。

以前は規模拡大も考えていましたが、単純に規模拡大を目指すのではなく、自分の牧場の土地条件や建物、労働力など全体をしっかりと見定めて、何がベストなのかを判断し、自分自身のレベルに合った酪農家になりたいと思います。これからは消費者に喜んでもらえる、自分達も幸せになれるゆりのある酪農家になりたいと思います。



小野寺 竜之介

私は放牧の小規模農家という立場で参加させて頂き、農場見学においてはオーガニックの為の放

牧であつたりと想像していたものとは少しかけ離れているように思いました。食文化において感じたのはチーズの個性があまり感じられなかったことも一因にあげられるかもしれません。多品種や既存の草種における放牧の牛乳の風味や乳酸菌はハードタイプ、熟成チーズで個性が出てくるのでスイスで食べたような独特なチーズは出会えませんでした。

ヨーロッパの乳価の低さはやはり変わらず付加価値をつけても大した額にはならない事を踏まえ、それでもオーガニックの農家が生き残りやすい環境をみると、自然農法の方がコストダウンにつながる糸口があるように思いました。大規模な農場においてもシンプルな営農が感じられ、いくら日本にはない所得補償等があるにせよ時間的なゆとりも感じられました。これは従事している人のスキルが作業形態によるものなのかを考えた時にその農場のベストなやり方が垣間見えた気がします。

私達のいる地域で当てはめたらうまくはいかないかもしれませんが、今回はたくさんさんのヒントを得たし今後の情勢に対応しなければいけない酪農家として収穫が多かった濃い視察となつたと思います。

素晴らしい研修になったのは、様々な場面で

対応、サポートして頂いた方々や受け入れて頂いた各所の皆様のおかげだと思います。本当に心から感謝の気持ちでいっぱいです。また普段なかなか集まることのないメンバーと行けた事で発見も楽しさも倍増したと思いました。



片野 登紀子

今回の海外視察研修では、アニマルウェルフェア政策が進んでいるヨーロッパの牛の飼育方、草地管理について学ぶことを楽しみに参加しました。

今回視察したヨーロッパの農場では、アニマルウェルフェア政策が徹底されていない農場が多く、飼育環境に疑問を感じる所がありました。多く目立った多頭飼いについては、乳価が低いため、低コストで頭数を増やし、乳量を求める経営を行っていくなかでは仕方のないことなのかもしれませんが、せっかく環境に恵まれているのに、と残念に感じました。しかし、多頭飼いの中でも数料が豊富であったりと、牛が過ごしやすいように工夫はされている農場もありました。

草地管理については、どの農家もこだわりがあり、良質な自給飼料を確保するために努力されていました。土壌管理から草地管理、牧草の品種、刈り取り時期等、すべてコントロールされています。管理方法、給餌方法、飼料設計等の話を聞くことができ、とても勉強になりました。今回の視察で驚いたのは、風土の違いでした。

温暖で地震も少なく、湿度が低く降水量が少ないためか、簡素化された牛舎が多いように感じました。そのため設備もシンプルなものが多く、日本とは違い驚きました。

今回の視察で残念だったことは、農場は規模が大きいのが多かったため、自分の牧場と違いすぎ参考になれる所が少なかったことです。大規模だけでなく、小規模農場など、もつと様々な形態の農場を視察できたら、よりよかつたなと感じました。

ヨーロッパの景観は素晴らしく、北海道とはまた違った、ゆったりと時間が流れるような絵画のような風景に感動しました。また、多くの酪農家が、「酪農」という仕事を楽しみながら、仕事以外の自由な時間を多く持ち、日々を満喫している様子が羨ましく感じ、こういう酪農を目指していきたいなと感じました。

今回このような貴重な機会を与えていただき、本当にありがとうございます。



中山 景介

今回初めての海外視察で、ヨーロッパにも行つたことがなく楽しみにしていました。北海道とあ

まり気温差がなく過ごしやすい気候で、お洒落な建物が多かったです。今まで行つたことのあるアメリカと台湾と比べると食べ物美味しく、食事のストレスは少なかったと思います。視察先では知らないものや良いものをたくさん

見れました。モンベリアードやホル・ブラウンとのF1、機械、様々な形の牛舎。カメラにたくさん動画を撮ったので、何回も見て、良い点悪い点、真似出来るところや真似してはいけないところを発見して、将来の酪農経営に少しでも活かし、海外視察に行つて良かったと数年後に思えるようにこれから日々考えていきたいと思っています。仲間にも恵まれ、無事に怪我なく全員で帰つてこれたのも企画運営していただいた多くの方々のおかげです。ありがとうございました。家族に旅費を出してもらいましたし、企画して頂いた方々の努力も無駄にするわけにはいかないので、これからしっかりと経営向上し、海外視察に行く価値があったと言えるよう頑張りたいと思います。



中山 ゆい

ヨーロッパに行き、色々な景色や違う言葉など、とても新鮮で良い経験になりました。飛行機

の移動など、慣れない土地での集団行動の難しさの中、周りの皆さんにたくさん迷惑をかけながらも、無事に終えることができました。視察先では、一番知識・経験が少ない中でわからないこともありました。この機会のおかげでたくさん勉強することができました。今後の活動にもっと精進しながら、意欲を持って接していきたいように頑張りたいと思います。この機会を与えて頂いた皆さんにとっても感謝しています。

停電時、牛舎に安全に向かうために ～住宅の中での停電対策～

昨年のブラックアウトから2回目の冬を迎えます。これまで発電機の電源切換盤など牛舎での停電対策が整備されてきました（写真1）。

併せて、牛のもとに早く安全に駆けつけられるよう、住宅内での安全対策も進めましょう。チェックポイントをまとめましたので参考にしてください。



（写真1）PTO駆動式発電機⑤と牛舎壁面の電源切換盤⑥

1. 身の安全を図る。

（1）枕元に懐中電灯を配備

暗いところでの安全確保のため、懐中電灯はすぐ手に取れるわかりやすいところに用意しましょう。現在は、手のひらサイズで光量もあるLED式の懐中電灯もあります（写真2）。



（写真2）LED式の懐中電灯

（2）乾電池の点検

乾電池は使っていないくても放電しています。未使用のものも、一度懐中電灯で点けてみたり、電池側面に書かれている使用推奨期限を確認し、使えるか点検しましょう（写真3）。



（写真3）使用推奨期限の記載位置の例

2. 玄関までの導線を確認する。

（1）保安灯（足元灯）の設置

コンセントに差し込んでおいて、停電時は自動点灯する保安灯が市販されています。コンセントから外すと懐中電灯代わりに利用できます。また、停電時でなくとも足元灯としても役立ちます（写真4）。



（写真4）保安灯（足元灯）の例

（2）電灯スイッチ・ブレーカに蓄光テープを貼付

暗くなると光るテープ（蓄光テープ）が市販されています。住宅・牛舎とも電灯スイッチやブレーカ・電源切換盤などに貼り付けておくと、暗い中でも見つけやすくなり、停電からの復旧作業等に役立ちます（写真5）。



蓄光テープ



（写真5）蓄光テープの貼付例
電灯スイッチ⑦、ブレーカーボックス⑧

路面凍結によるスリップ・転倒に注意しましょう！

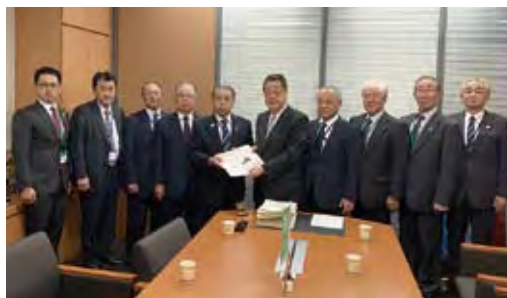


JA北海道中央会



J Aグループ北海道は11月14日に東京都にて、「経営所得安定対策の単価改定」と「総合的なT P P等関連政策大綱の見直し」に向け、道内与党国会議員や農林幹部に対する中央要請、並びに農林水産省と意見交換を実施しました。経営所得安定対策では3年に一度の単価改定の見直し議論が行われていることから、輪作バランスや畑作経営に対する影響を考慮し、単価が大きく変動しない単価設定とすることや、各作物の生産振興対策などを求めました。T P P等関連政策大綱の改訂にあたっては、相次ぐ大型貿易協定の発行による、中長期的な北海道農業に与える影響が大きいため、各作物別の需給調整・価格安定対策の充実強化、生産基盤の強化に向けた対策を求めました。

今後も、北海道の農家、組合員が安心して営農できるよう取り組みで参ります。



JA北海道信連



収穫体験や調理体験等の独自イベント、「旬食カレッジ」は今年で4年目となり、今回は一般の女性の方々を対象に、8月、江別市で開催しました。また、全道各J Aの協力を受け、今年度から新たに「親子で学ぼう! あぐりキッチン教室」を、全道各地で延べ25回開催しました。これらの食農教育活動を通じて、食や農に対する関心を高め、J A・J Aバンクのサポーターを育てる取り組みを行っています。



JA共済連北海道



J A共済連北海道は、「2019年度 J A共済全道小・中学生交通安全ポスターコンクール」の表彰式を10月26日(土)にA N Aクラウンプラザホテル札幌にて開催しました。46回目を迎える同コンクールは、全道より3,296点の応募をいただき、その中から金賞9作品が選出され受賞されたみなさんが表彰されました。

今回受賞された作品は、さっぽろ雪まつり会場・道庁ホールでの展示等が予定されております。



ホクレン



ホクレンと北海道米販売拡大委員会は10月17日、北海道産の2019年新米発表会を東京都内で開きました。発表会には鈴木直道・北海道知事とC Mキャラクターを務めるタレントのマツコ・デラックスさんらが出席しました。ホクレン内田和幸会長より「今年は、ご満足いただけるおいしい北海道米をお届けできます」とアピールし、マツコさんはステージ上で新米を試食し、「実は一番好きなのがこの『ふっくりんこ』」と楽しいトークで盛り上がりました。



JA北海道厚生連



10月23日(水)ホテルポールスター札幌において、令和元年度北海道福祉のまちづくり賞の表彰式が行われ、J A北海道厚生連特別養護老人ホーム摩周が公共的施設部門の「北海道福祉まちづくり賞」を受賞しました。この賞は福祉的配慮に優れた公共的施設等におくられるもので、福祉・建築・市民活動等の有識者で構成する会にて審査が行われ表彰が行われました。この賞を機に施設としての充実だけでなく、入居者の皆さんの生活の充実に向けて更なる向上を目指したいと思います。



J Aグループ北海道の連合会・中央会の活動内容をご紹介します。各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。



第9回 理事会報告

令和元年11月16日(土)

報告事項

- 令和元年11月上旬現在の生乳生産状況及び10月末クミカン取引状況について

	当農協	釧路管内	全道
11月上旬	99.7%	100.5%	101.7%
累計	100.8%	100.7%	102.0%

- 組合員の加入及び脱退について

正組合員加入 1名
正組合員脱退 1名

議決事項

- 各種貸付金の貸付承認について
農業資金4件、生活資金1件
- 新規就農について
- 年末年始の業務日程について

JAくしおおち

12月
令和元年

行事予定

4(水)	よつ葉乳業根釧工場運営協力会	20(金)	第10回 理事会予定
5(木)	一般市場		乳牛市場
6(金)	釧路地区統一特売	25(水)	クリスマス
11(水)	Aコープ特売		歳末大売出し(～27日)
12(木)	一般市場	26(木)	一般市場(初生のみ)
16(月)	中山間釧路太田集落、多目的協議会役員会	30(月)	業務納め
18(水)	Aコープ特売	31(火)	大晦日
19(木)	一般市場		

令和元年度 年末・年始の業務日程表

年月日	令和元年12月				令和2年1月					
区分	28(土)	29(日)	30(月)	31(火)	1(水)	2(木)	3(金)	4(土)	5(日)	6(月)
金融	午前中営業 9時～12時	休業	午前中営業 9時～12時	休業	休業	休業	休業	休業	休業	営業 9時～15時
ATM	午前中営業 9時～12時	休業	営業 9時～12時	休業	休業	休業	休業	休業	休業	営業 9時～15時
営業時間	午前中営業 9時～12時	休業	午前中営業 9時～12時	休業	休業	休業	休業	休業	休業	営業 9時～15時
Aコープ 資材店舗	午前中営業 9時～12時	休業	午前中営業 9時～12時	休業	休業	休業	休業	休業	休業	営業 9時～15時
スタンド 油配送	通常営業 9時～17時	休業	通常営業 9時～17時	午前中営業 9時～12時	休業	休業	尾幌スタンドのみ 営業 9時～14時	太田スタンドのみ 営業 9時～14時	休業	営業 9時～15時
営農 畜産	午前中営業 9時～12時	休業	午前中営業 9時～12時	休業	休業	休業	休業	休業	休業	営業 9時～15時
生乳検査	通常業務	通常業務	通常業務	通常業務	休業	休業	休業	通常業務	通常業務	通常業務
生乳輸送	通常業務	通常業務	通常業務	通常業務	通常業務	通常業務	通常業務	通常業務	通常業務	通常業務

※令和2年1月7日(火)より通常業務



静岡県 寸又峡の夢の吊り橋

11月4日に静岡県から無事太田に帰って来る事が出来ました。連日20℃以上あり、道東で言えば夏!!空港に降りた途端に冬に逆戻り…。娘達の結果ですが、長女20インチ10km女子小学生3～4年生の部第3位、次女20インチ5km男女小学生3～6年生の部3位でした!!お疲れ様。来年は三女も含め、1位目指すぞ!!

(ペンネーム／一輪車娘の父)

水たまりに氷がはるようになりました。いよいよ冬の訪れですね。

(ペンネーム／コンサ大好き親父)



(ペンネーム／いちご)

11月に入り朝晩が寒くなりとても嫌な季節になりました。毎日暖かくして過ごしたいです。これからは仕事、毎日の生活するのに転ばないようにしたいですね。

(ペンネーム／子ねこ大好き)

暑い暑いとついこの間言ってたのに、寒い毎日になりますね。あちこち痛い痛いのは1年中言ってますが、あったかい温泉につかって身も心もお肌もリフレッシュしましょう!!

(ペンネーム／スノーウーマン)

記事・写真・イラストなど 大募集!!

身近で起きた出来事やベストショット写真、JAに対するご意見・ご要望など、読者の皆様からのご応募お待ちしております。

別紙の応募用紙に氏名・住所・電話番号を記入して、JA釧路太田事務所・Aコープおおた店・ホクレン太田・尾幌スタンド・酪農支援センターにある応募箱に投函してください。

編集後記

今年も残すところ約1ヶ月となりました。また新たな年に向けて良いスタートが切れるように、年末やり残したことがないようにしたいところです。さて、この時期になると空気の乾燥が目立ちますね。インフルエンザや風邪など体調管理には気を付けていきましょう。また火事なども増える時期となっていますので火を扱う際には十分気を付けていきましょう。

編集担当／S.I

